

## 1. 読書能力と国語力

### 科学・技術の進歩も基本は国語力

日本がまだ力をもたなかった頃、水平思考という言葉で有名なケンブリッジ大学の

教授デボノ博士が、「イギリスではせいぜい数千部も売れば上出来と思われる学術専門書が、日本では十万部以上も売れている。この読書エネルギーは、やがて日本を世界一にするだろう」と予言しました。

確かに、明治時代の発展も、第二次大戦後の興隆も、共にこのエネルギーによるものだということが出来るでしょう。

日本人くらい書物や新聞雑誌をよく読む民族はないでしょう。混み合う通勤電車の中でも、多くの人が何かを読んでいます。たとえそれがスポーツ新聞であっても、とにかく、階層の区別なく活字を読んでいます。これは諸外国には見られない、日本人の日常の姿勢の一つと言えるでしょう。

この特異性が、日本人の知識を向上させ、技術を向上させ、短時

日の間に先進国の文明に追付き、追越させた、最大の理由だと言えましょう。

以前、朝日新聞に、「科学技術教育と国語教育の重要性」という題の社説が載ったことがあります。それは次のような要旨のものでした。

近頃、科学技術教育の必要性が叫ばれているが、それにつけても、その根底にある“国語”の教育の重要性を忘れてはならない。極度に正確な表現と理解とを要求する科学を学ぶには、細かい知識や技術

コラム

### 部首 召

殿様が「刀を持て」と言って小姓を“よびつける”ことで、刀との会意形声字。

【招】 召が で呼んでよびつけるのに対して、手でおいでおいでして“まねく”こと。召が目下をよびつけるのに対して、招はお客をまねくこと。

【昭】 “日の光を招き入れる”ことで、“明るい”“照り輝く”こと。

【照】 灬が火の燃える様を表す部首なので、日や火が明るく“てらす”意味。

そのものよりも、学問研究のための基礎としての国語をしっかりと身に付けることが肝要である。

科学を納めるためには、まず、先人の著述や記録を正確に理解する“読解力”を必要とする。

次に自ら観察し、実験した所を、論理的に精密に記録する“表現力”を欠くことが出来ない。つまり、科学や技術に限らず、あらゆる学問が進歩する根底には、それぞれの国の“国語”の力というものがある。

コラム

**部首 監**

監の古い形は監。臣は臣で、目を大きく見開いた形。“見張る”のが本義で、普通は“見張る人”つまり“家来”。監は人の変形。監は皿に水がいっぱい入っていることを示したもの。だから監は皿に満たした水に人が顔をうつし、それを見つめることを表した字。つまり“水かがみ”が本義。上から見おろさなければならぬから、“見おろす”“部下を見張る”という意味にも。

【覧】 見おろす意味の監の省略した形“監”と見との会意形声字で、“上から下をつくづくと見る”こと。

るのだ。……と。

この考え方は大切です。良い花を咲かせたい人は、花そのものには手を掛けなくて、まず土に肥料を施し、水を与えることに専念します。科学教育と言い、技術教育と言うのも、いわば、豊かな土壌である“国語教育”の上に咲く花です。科学教育だ、理科教育だと騒ぐ前に、まず国語教育をしっかりとやらなければなりません。

**日本人の読書エネルギーの源泉**

ところで、デボノ博士を感心させた「日本人の読書エネルギー」は、どこから生れるのでしょうか。それは、よく言われるように、日本人の勤勉さからでしょうか。

勤勉さもさることながら、私は、日本人の持つ高い読書能力、国語力から生れる、と考えています。

およそ、世の中に、読書能力さえあれば、読書ほど、永続的に楽しくて有益なものは他にありません。ただ、読書能力が低いと、読んでも十分に理解できないので、読書が楽しめないのです。

私はむしろ、読書能力の高いことが日本人の読書エネルギーを生み出しているのであって、日本人が勤勉だと言われるのは、その結果だと思うのです。

### 偉大な発明 漢字かな混り文

では、日本人はなぜ外国人に比べて読書能力が高いのでしょうか。

その理由は、当然、日本固有のものの中になければなりません。つまり、わが国固有の表現法“漢字かな混り文”にある、と思われます。日本語は、表意文字(実は、表語文字と言うべきもの)である漢字で書き表すのが良い言葉と、表音文字であるかなで書き表すのが良い言葉とから出来ています。漢字かな混り文は、そういう日本語のために発明された、世界に類のない表現法で、これが読書能力を非常に高めているのです。

漢字は、言葉を直接表していますので、一目でそれが何を意味しているかを知ることが出来ます。ローマ字やかな文字は、表音という手段によって間接に言葉を表すので、文字の目的である“表意性”の

点では機能的にどうしても漢字に劣ります。

しかし、表意性に優れた漢字でも、漢文や現在の中国語のように、漢字ばかり並びますと、決して読みやすくありません。つまり、漢字ばかりの文章でも、また、かなばかりの文章でも読みにくいのです。これにひきかえ、漢字とかなとが適当に混り合った“漢字かな混り文”は、双方の特長を生かして読書をしやすくしています。そして、それが日本人の読書能力を高めているのです。